

中学校長会会長賞

堺市立 泉ヶ丘東中学校 三年

松 本 梨 華

偏見のない世界へ

偏見のない、差別のない世界を想像したことはありませんか？そんな世の中になればどんなに素敵な世界になる事か。そんな世の中を実現させたい。

私にはお母さんが毎朝早く仕事に出かけるため、お父さんがお弁当を作っている友達がいる。ある日、友達とお弁当の話になったとき、他のみんなは私も含めてお母さんがお弁当を作っていた。お父さんが作っている話が出た際に、最初に出てきた言葉は「想像できない」「信じられない」などだった。その後の会話では、「すごいね」などの肯定の言葉も出てきたが、最初に出てくる言葉が肯定ではない時点で偏見があると感じた。

私たちの住む世界は偏見だらけだ。「家事、育児は女性がするべき」「眼鏡をかけている人は真面目」。このような偏見は身近にあるし無意識に自分も偏見を持っている。私は犯罪を犯してしまっただ人に対してもおなじようなことが言えると思った。

二〇二三年の国内の犯罪情勢は七十万件以上と、二年連続で増加している。その中で再犯率は五割近く達するとの事。

ふと思ったことがある、なぜ再度犯罪を犯してしまうのか。すぐに思い浮かんだのは、朝起きたときに道路の上で、手元に食べ物がなく、仕事もお金もない状態。そんな状態で犯罪に手を染めないで居られる人が果たして何人いるのだろうか。私なら、犯罪に手を染めてしまうだろう。ということは、環境が整っていれば犯罪は減るということではないだろうか。犯罪を起こしてしまっている人は環境が原因で犯罪に手を染めてしまっている。そんな状況はいたるところにあるのではないだろうか。

再犯を犯してしまうのは、社会からの犯罪を犯してしまった人への偏見のせいだと思う。服役を終えた人などへは根強い偏見があり、就職の際に差別や住居の確保の困難など様々な問題があり社会復帰が難しくなることが多いため、犯罪に手を染めるしかないのだと気づいたからだ。

では、環境が全て整っている場合ではどうだろう。朝、目が覚めると温かいベッドの上で、ご飯をお腹いっぱい食べることができ、仕事もあってお金もある。そういう私たちのような状態。こ

の状態でも果たして犯罪を犯す人はいるのだろうか。いや、いないだろう。リスクを犯してまで得られるメリットがあまりにも少ないからだ。やはり犯罪を犯してしまう、再犯をしてしまうのは環境が大きな原因ではないだろうか。

犯罪が多く起こる地域は、全員が満足のいく生活が出来ておらず、もちろん再犯をしてしまう人も多くいるということ。そんな人々を見捨てずに偏見をなくし、認めることが出来れば地域全体の生活レベルが向上し、満足度も上がっていくのではないだろうか。それは地域の犯罪件数の減少にもつながるはずだ。

偏見のない、差別のない世界を作りたいとは思いませんか？環境により多くの犯罪を犯してしまった人達が再犯せざるを得なくなっているこの世の中を変えたいとは思いませんか？考えを改めるのは私たち社会だと私は思う。私たち一人一人が偏見をなくしていくだけでいい。難しいことかもしれないが、それだけで私たちの生活や町の治安はもつと良いものになるだろう。

それが私たちだけでなく世界中に広がり、更生しようと思える人が増える。そんな世の中が近々実現できることを願っている。

